

# 平成24年度事業計画

公益財団法人大阪市博物館協会

## はじめに

当協会においては、各種の事業を施設ごとで実施しており、平成24年度についても、次頁以降の事業を予定している。これら事業と法人の公益目的事業との関係については次の通りである。

1. 埋蔵文化財の発掘調査と保存科学分析事業（受託事業）については、大阪文化財研究所において「1. 埋蔵文化財の発掘調査・報告書作成」事業において実施する。
2. 文化財や博物館関係資料の調査研究事業（自主事業）については、大阪文化財研究所における「4. 文化財に関する研究」をはじめ、大阪歴史博物館、東洋陶磁美術館、自然史博物館における「3. 調査・研究事業」等と併せて、競争的資金等も活用して実施する。
3. 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用事業（自主事業）については、大阪文化財研究所における「2. 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用」事業として実施し、その成果を各館の「2. 展示事業」や「3. 調査・研究事業」等で活用する。
4. 文化財等資料を活用した展示・公開事業（自主事業）については、大阪文化財研究所の「4. 教育・普及事業」をはじめ、大阪歴史博物館の「2. 展示事業」における特集展示や特別企画展、大阪城天守閣での「5. 史跡の活用・普及事業」の季節イベント等を実施する。
5. 講座等による教育普及や人材育成事業（自主事業）については、大阪文化財研究所の「4. 教育・普及事業」をはじめ、美術館での「9. 美術研究所事業」等で実施する。
6. 体験活動事業（自主事業）については、大阪歴史博物館の「5. 学校・市民等との連携」事業における体験発掘や、美術館での「9. 美術研究所事業」、大阪城天守閣での「4. 普及事業」の教育普及の一環等で実施する。
7. その他活動（自主事業）については、法人の連携事業の「1. 法人の自主事業」等において実施する。
8. 文化財関連施設管理・活用事業（受託事業）については、大阪文化財研究所の「1. 埋蔵文化財の発掘調査・報告書作成」における文化財関連施設の管理事業において実施する。
9. 大阪市立博物館・美術館管理運営事業（指定管理による受託事業）については、各館の事業として実施する。

次に法人の収益事業については、施設の一部を売店・食堂等として使用することで来館者サービスの向上やその収益を公益目的事業に充てることを目的とする事業を、大阪歴史博物館、自然史博物館、美術館、東洋陶磁美術館、大坂城天守閣において実施する。

さらに、法人のその他の事業（相互扶助等事業）については、友の会会員に対して行う講演会等を通じて、友の会活動の推進や会員の美術・東洋陶磁に関する公益目的事業に対する理解を深めることを目的とする事業を、美術館、東洋陶磁美術館において実施する。

# I. 大阪文化財研究所事業

## 1. 埋蔵文化財の発掘調査・報告書作成等

### (1) 文化財調査受託事業

発掘調査では、難波宮跡・大坂城跡をはじめとする市内の各種公共事業や民間開発に伴う緊急発掘調査、国庫補助金による史跡整備に伴う発掘調査約30件等に速やかに対応する。

報告書では難波宮跡・長原遺跡・山之内遺跡等に関する10件を作成して全国の大学・教育委員会・研究機関などに送付するほか、大阪市内北部方面の報告書を作成して成果の公表に努める。

### (2) 保存処理・分析事業

他地域の出土品や文化財の保存処理・分析を積極的に受託し、実施する。

### (3) 文化財関連施設の管理事業

地域の文化資産として活用を図るため、難波宮跡公園及び5世紀代建物、埋蔵文化財収蔵倉庫の維持管理を受託し、遺跡や出土品を良好な状態で保存・管理する。

## 2. 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用

開発に成功した木製品保存処理の新技术（トレハロース含浸処理法）の継続的な研究と実用化を推し進めるとともに、市内発掘出土品の保存処理・理化学的な分析を行う。

また、処理の済んだ資料を博物館・美術館の展示等で活用するとともに、技術力や人材を活かし、学会に向けた保存科学技術の公開や一般に対する教育普及に努め、文化財の調査と公開等に関する事業を積極的に実施する。

## 3. 文化財に関する研究

科学研究費補助金をはじめとする競争的資金の獲得に努め、文化財や考古学、歴史に関する研究を行い、研究紀要の刊行等で成果を公表する。

個々の学芸員の専門に基づく研究のほか、すでに着手している発掘調査で得られたデータの網羅的な収集と標準化を進め、広範囲にわたる遺跡の時間的・空間的な構造と特性の解明を目指す。その成果は、大阪歴史博物館における特別展「天下の城下町 大坂と江戸」や特別企画展「大阪を襲った地震と津波」、研究紀要や情報誌、ホームページ等を通じて、効果的に公表されるように工夫する。

また、海外の研究機関や研究者との国際交流を進めることで、大阪の歴史と文化財の研究に供する。

## 4. 教育・普及事業

### (1) 展示等をはじめとする資料活用

大阪歴史博物館と協力した出土品の速報展示や常設展内での陳列、年度ごとの調査成果を総覧する特集展示「新発見！なにわの考古学」展等の企画展示をはじめ、大阪市立の博

物館・美術館群や各地の文化財関連施設、博物館・美術館の展示へ協力するほか、出版社等への写真資料提供等も行う。

また、遺跡に隣接して出土品を展示している各地域の公共・民間施設（市内 30 数箇所の展示施設：「街角ミュージアム」）への協力をはじめ、依頼により展示施設の企画・設置を行うなど、発掘調査の成果を地域に密着して公開し、地元意識の醸成や地域振興に貢献することを図る。さらに、難波宮跡公園をはじめとする史跡や、資料の照会・見学に随時、対応する。

#### (2) 講座等による教育普及や人材育成

発掘調査の成果をより速やかに、多くの市民を対象として公開すべく現地説明会を開催するとともに、大阪歴史博物館での「金曜歴史講座」・「大阪の歴史を掘る」をはじめとする講座や催しを大阪市立の博物館・美術館群と協力して実施する。

また、「いちょう大学（大阪市教育委員会）」・「平野住民大学講座（平野区画整理記念会館）」・「すみよし北講座（市民交流センターすみよし北）」等の他機関が開催する生涯学習事業に対し、企画・講師派遣等で協力する。そのほか、国内外各地の発掘調査機関からの要請に応じて専門家研修に講師を派遣する。

#### (3) 地域と連携したイベント等の共催・出張展示

文化庁等外部の補助金を獲得し、大阪市の博物館・美術館群及び地域の団体と連携して、「難波宮フェスタ」・「なにわの宮リレーウォーク」等の市内の遺跡と出土品を活用した体験イベントや見学会を行う。また、各区の市民団体と連携して講座・展示の企画制作を行い、「大阪あきない祭り」・「中央区民まつり」・「長原・六反古代市」等へ出張展示やワークショップに参加することで地域活動に支援・協力する。

#### (4) 体験活動事業

体験発掘を大阪歴史博物館と共同で開催し、市内児童を対象に現場で直接発掘に従事し、出土遺物に触れる機会を提供し、学校教育を支援する。

#### (5) 情報発信

情報誌『葦火』（隔月）等の図書の刊行・頒布を行い、インターネット上にある当研究所ホームページや、大阪市の博物館・美術館群、地域団体と共同で制作する「なにわ まナビガイド（文化庁補助金事業）」を活用して、文化財に関する各種情報や催事情報等の発信に努める。

#### (6) 関連資料の収集・管理

文化財に関連する調査報告書及びほかの関連図書等の収集・管理に努め、活用に供する。

#### (7) 他団体との連携

全国埋蔵文化財法人連絡協議会へ参加・協力するほか、同協議会近畿ブロックで構成する実行委員会に参画し、平成 20 年度以来毎年行っている『関西・考古学の日』を今年も開催する。

## 5. 大阪市の博物館・美術館との連携

調査・研究、展示、教育普及、広報等の各般において、法人が運営する大阪市の博物館・美術館をはじめとする関係機関との連携を積極的に進め、文化財に関する事業及び博物館・美術館活動の活性化に努める。

## II. 大阪歴史博物館事業

### 1. 資料の収集、保管事業

大阪の歴史と文化に関する資料の情報収集に努め、収集方針にもとづき着実に資料の収集をはかる。新収蔵資料には燻蒸を実施し、最適な環境での資料の保管を行う。

### 2. 展示事業

#### (1) 常設展示

館蔵品や埋蔵文化財の計画的な展示更新を行うとともに、学芸員による展示解説、ボランティアによるスタンプラリーや体験事業(ハンズ・オン)などを実施する。

#### (2) 特集展示

館蔵品や大阪文化財研究所による最新の埋蔵文化財の調査結果を活用し、「中村順平 建築芸術の探求」、「なにわの薬屋さん」、「新発見!なにわの考古学 2012」、「大阪の茶の湯と近代工芸」、「平成 22・23 年度大阪市の新指定文化財」、「和田呉山と仏の絵画」の年間 6 本の特集展示を開催する。

#### (3) 特別企画展「大阪を襲った地震と津波」

[平成 24 年 7 月 25 日(水)～8 月 26 日(日)]

大阪では過去何度も大きな地震や津波があった。この展覧会では、大阪文化財研究所や自然史博物館等とも連携し、記録や発掘調査の成果などから過去に大阪を襲った地震と津波を取り上げ、人びとが災害に対してどのように対応したのかを多角的に紹介する。

#### (4) 特別展示

##### ①大阪城天守閣・大阪歴史博物館合同自主企画特別展「日欧のサムライたち—オーストリアと日本の武器武具展—」

[平成 24 年 3 月 24 日(土)～5 月 6 日(日)]

大阪城とエッゲンベルグ城との友好城郭提携 3 周年を記念した特別展を当館との合同自主企画で開催。神聖ローマ帝国時代と豊臣期の武器武具など日欧の資料を比較展示し、東西の歴史・文化・戦闘方法を紹介する。

##### ②特別展「ザ・タワー 都市と塔のものがたり」

[平成 24 年 5 月 23 日(水)～7 月 16 日(月・祝)]

平成 24 年 5 月、東京に新しい塔「東京スカイツリー」が完成する。また今年は通天閣 100 周年でもある。この展覧会では、「眺める」「登る」「記憶に残す」などをキーワードに、人びとが織りなしてきた「都市と塔のものがたり」のさまざまを、東京・パリ・大阪から紹介する。

##### ③特別展「ウクライナの至宝—スキタイ黄金美術の煌めき—」

[平成 24 年 9 月 15 日(土)～11 月 25 日(日)]

ウクライナが独立し、日本との外交関係が樹立して 20 周年となるのを記念した特別展。スキタイが残した優美な黄金製品をはじめとする、紀元前 8 世紀から現代までのウクライナの各時期・民族・文化を代表する国宝級の資料 223 点を展示し、東西文化が去来し

たこの国の歴史や文化を紹介する。

#### ④特別展「天下の城下町 大坂と江戸」

[平成25年2月2日(土)～3月25日(月)]

大坂の町は、豊臣秀吉の城下町として構想・建設された。この展覧会では、徳川家康の城下町・江戸との比較をとおして、「天下の城下町」大坂の特徴を浮き彫りにする。なお、この展覧会は、大阪文化財研究所とともに進めている科学研究費補助金基盤研究(A)の成果報告の一部として開催する。

### 3. 調査・研究事業

外部研究者を交えた難波宮や大阪学に関する共同研究、ならびに館蔵資料や博物館学に関する基礎研究を実施し、その成果を共同研究成果報告書・研究紀要・館蔵資料集として刊行するとともに、上記をはじめとする科学研究費補助金による研究を行い、学会等において成果を発表する。

### 4. 教育・普及事業

学芸員による「なにお歴博講座」や「古文書講座」、外部講師による講演会やシンポジウム、大阪市内の遺跡をまわる見学会、子ども向け体験教室等を実施し、市民が大阪の歴史と文化を学ぶ機会を提供する。

### 5. 学校・市民等との連携

大阪文化財研究所と連携した難波宮の体験発掘など法人が運営する各館・所はもとより、講師派遣等をとおして学校との連携を図るとともに、大阪市教育センターとの共催による社会科教員向け研修の開催や、大学生の博物館実習の受け入れをおこなう。

また、博物館を拠点に活動するボランティアや友の会、地域のNPO法人等との共催事業をとおして市民団体との連携を図る。

### 6. 情報発信、広報宣伝

ホームページ・歴博カレンダー(季刊)・ポスター・チラシ、及びマスメディア等をとおして、幅広く効果的な情報発信・広報宣伝を実施する。

### 7. 来館者サービスの向上

文化庁の補助金を活用した展示解説を補助する端末(タブレット)の提供、案内サインの改善、スタンプカードの実施、レストランとの提携など、来館者のニーズに応じたサービスの向上を図り、博物館利用の促進に取り組む。

### 8. 施設の維持管理

警備・券売・清掃の実施。設備等の保守点検の実施。安全で快適な施設の運営に取り組む。

### Ⅲ. 大阪市立自然史博物館事業

#### 1. 資料の収集、保管事業

動物・植物・化石・岩石・鉱物等に及ぶ自然史資料を、大阪を中心としつつ、それと密接に関連のある資料は、日本全国更には必要に応じて海外にまで対象地域を広げて収集する。特に、大阪との地理的關係から東アジア～東南アジア地域を重視する。

収集した標本は、マイナス 45 度の低温薫蒸を基本とし、必要に応じて薬品薫蒸処理を行った後、登録して収蔵庫内に最適な環境で保存し、展示や教育活動、外部利用者へのサービス等に積極的に活用する。また、これまでも取り組んできた標本情報のデジタル化や公開を今後も進めるとともに、収蔵資料目録を刊行する。

昨年度に引き続き、東日本大震災で被災した博物館資料の「標本レスキュー」事業に取り組んでいく。

#### 2. 展示事業

##### (1) 常設展示

常設展の展示資料の入替えを適宜行うとともに、子ども向け解説の増設やこれまで好評であったジオラボ、子どもワークショップ、探検クイズなど来館者と直接的に対話を行う事業を一層充実させていく。あわせて、中長期的な視野に立った系統的な展示更新の検討を進める。

##### (2) 特別展示

###### ① 特別展「新説・恐竜の成長」

ティラノサウルスやトリケラトプスなど、人気が高い恐竜の「子ども(幼体)」から「大人(成体)」までの成長による変化を、多数の日本初公開となる恐竜化石や10体以上の精巧な恐竜ロボットなどで紹介する。特にティラノサウルスは、世界最大の実物頭骨化石を公開する。

<会 期> 平成24年3月10日(土)～6月3日(日)

<展示コーナー>

恐竜とは?、トリケラトプス、ヒパクロサウルス、パキケファロサウルス、ティラノサウルス、化石が研究されるまで、恐竜を復元する など。

<主 催> 大阪市立自然史博物館、読売新聞社

###### ② 特別展「のぞいてみよう!ハチの世界」

ハチは、ミツバチで代表されるようにとても身近な昆虫だが、いっぽうでスズメバチのように怖い昆虫というイメージもある。しかしハチはそれだけでなく、女王蜂を頂点として働き蜂などの階層に分かれる社会性昆虫の代表的なグループであったり、狩りをしたり他の昆虫の幼虫に卵を産み付けて育てるなど、とても多様な形態・生態を持っている。

そのようなハチを、多数の標本を展示するとともに写真・動画・音声をまじえてハチ



の世界を紹介する。

<会 期> 平成24年7月28日(土)～10月14日(日)

③ 特別展 モンゴルの恐竜研究最前線(仮称)

<会 期> 平成24年11月下旬～平成25年6月上旬(予定)

<主 催> 大阪市立自然史博物館、読売新聞社(予定)

※開催に向けて、開催時期・開催方法・予算などについて関係先と検討中

(3) 特別陳列など

① ミニ展示「大阪のタンポポは今 2010年の市民調査から」

身近な植物でありながら、まだまだナゾが多いタンポポ。2010年に西日本一帯で取り組まれた市民調査の成果と最新の研究成果を紹介する。

<会 期> 平成24年3月17日(土)～6月3日(日)

<会 場> 自然史博物館(本館)2階 イベントスペース

### 3. 調査・研究事業

学芸課内のプロジェクト調査、学芸員の個別テーマによる研究、館外研究者との共同調査研究を行うほか、市民参加による調査活動として、「大阪を中心とした都市の自然に関する調査」を継続して実施する。また平成25年度に開催を予定している「大阪湾」展に向けて「大阪湾見まもりネット」、「大阪湾海岸生物研究会」など関係団体と共同して調査を進める。また、調査・研究に当たっては、科学研究費等の競争的資金の活用にも努め、その成果は、学会や当館主催の学芸ゼミで発表するとともに、当館刊行の研究紀要や学会誌に寄稿する。

### 4. 普及教育事業

「やさしい自然観察会」・「テーマ別自然観察会」等の野外観察会と、室内実習・植物園案内・ジュニア学芸員になろう!・博物館たんけん隊・ジュニア自然史クラブ・ジオラボなど博物館内で行うイベント、自然史オープンセミナーや講演会、「自由研究相談会」、「標本同定会」など多彩な事業を実施し、自然に親しみ、楽しく学べる機会を提供する。実施に当たっては、NPO 法人大阪自然史センターと連携して、事業の充実に努める。

### 5. 学校・市民等との連携

総合的な学習の時間やキャリア教育など学習活動のサポート、教員向け支援プログラムの実施、教材の貸出し、Teacher&Museum Network による情報提供等で学校教育を支援する。

野外観察会補助スタッフ等のボランティアを行事毎に募集するほか、月例ハイク等の自然史博物館友の会事業を支援し、NPO 法人大阪自然史センターの各種事業に協力する。

法人が運営する各館・所はもとより、併設施設との連携についても、積極的に進める。当館のネイチャースクエア「大阪の自然誌」がある「花と緑と自然の情報センター」は、「長居植物園」との複合施設である。そして、両施設は隣接し、互いの相乗的効果を活かしていくことを大切にしている。毎月の相互連絡会を開催し、今後とも「長居植物園」の事業と密接

な連携・協力を図っていく。

## 6. 情報発信、広報宣伝

常設展の入館者増を図るため、地下鉄車内の最寄り駅案内放送を取り入れるなど、広報宣伝に予算面も含めて強化する。当館のホームページを充実し、年間を通じた利用促進を図る。また、館内パンフレット、ポスター・チラシを効率的に配布し、マスコミ発信や地域情報誌掲載を含めて、博物館活動全体の広報宣伝を積極的に行う。さらに展示解説書等の出版物を刊行し、成果の公表と市民の学習支援を行う。

## 7. 来館者サービスの向上

魅力ある展示事業や普及教育事業の展開に努め、来館者との対話を深め、一人一人のニーズに応えられるように取り組む。また、ゴールデンウィークやお盆時期の定例休館日の臨時開館、関西文化の日への参画等により、一層のサービスの向上を図り、利用の促進に取り組む。

## 8. 施設の維持管理

警備・案内・券売・清掃及び設備等の保守点検を専門の業者に委託して、安全・快適な施設の維持管理に努める。また職員の意識向上に努め、施設のよりよい維持・管理を組織的・継続的に取り組む。

## IV. 大阪市立美術館事業

### 1. 資料の収集、保管・貸出等事業

日本や中国で制作された絵画・彫刻・工芸などを中心に、寄贈等による館蔵品と社寺や個人から預かる寄託品のさらなる収集に努める。また、それらを適切に保存・管理するための収蔵環境や、照明・展示ケースなどの展示環境を整えて作品を適切に収蔵する。あわせて、平常展や特別展・特別陳列などで展覧するとともに、貸出しによる他館の展覧会への出品や、他の研究機関などへの観覧に供する。

### 2. 展示事業

国宝、重要文化財の公開承認施設として、館蔵品や寄託品等の作品をより広く市民の方々に展覧することに努める。そのため、一定のテーマによる平常展の開催、館独自の企画に基づいて特別に所有者から作品を借用する大規模な特別展の開催、他の共催者と開催する多様な内容の特別展の誘致などに努める。これらの展示事業を通じて、市民文化や情操・教養の向上とともに、学術の発展に寄与することを目指す。

#### (1) 平常展（常設展）

学芸員の日頃の研究成果を披露するとともに、市民をはじめ来館者の美術に対する関心を高めるための平常展を、美術館活動の根幹と位置づけ開催する。具体的には、年間を通じて、さまざまな角度から日本や中国の美術を展望できる展示を展開し、最新の学術的知見を反映させた展示活動を精力的に行う。なお、平常展の中で特にテーマや内容、広報の上で重要なものについては、「特集展示」と銘うって開催する。また、本年は1912年に初代の通天閣が建設されてから100年目にあたることから、夏休み企画として通天閣と連携して「ビリケンさんが来たぞ」を平常展のイベントとして企画している。

#### <特集展示>

「たっぷり見たい屏風絵」 [平成24年9月11日（火）～10月14日（日）]

<特別展「紅型」展（後述）と併設して開催>

田万コレクションなどの桃山～江戸時代の館蔵品や、社寺や個人から寄託を受けている作品の中から近世屏風絵の名品を選び展観する。

#### (2) 特別展

学芸員の調査研究の蓄積を基礎に、利用者のニーズを踏まえながら魅力あるテーマを設定し、特別展を開催する。館蔵品や・寄託品を用いたり、全国の寺社や国内外の美術館、博物館、個人所蔵の作品を特別に借用する大規模な自主企画の特別展を開催したり、全国を巡回する集客性が高く充実した内容の展覧会を誘致する。

①「草原の王朝 契丹」展 [平成24年4月10日（火）～6月10日（日）]

10世紀の北アジアの草原に登場した契丹（きったん）は、巧みな騎馬戦術と、中国

の北宋や朝鮮半島の高麗、中央アジアの西夏やウイグルなどとの外交によって富み栄えた。華やかな金銀器を中心にその栄華の軌跡を紹介する。(出品件数128件(国家一級文物51件、中国国外初公開51件、日本初公開93件))

②「第58回全関西美術展」 [平成24年7月3日(火)～7月16日(月・祝)]

大阪の芸術振興を図るため、昭和16年に大阪芸術展覧会として発足した日本画・洋画・彫刻・工芸・書の5部門の公募展で、入選作品と招待作家の作品をあわせて展示。

③「沖縄復帰40周年記念 紅型 BINGATA 琉球王朝の華」

[平成24年9月11日(火)～10月21日(日)]

琉球王朝の時代に生み出された紅型(びんがた)衣装の初めての本格的な展覧。紅型とは琉球王朝時代に生み出された、型染めで模様が表現された衣装。模様の多様性と色彩のあでやかさが特徴で、琉球王家に伝えられた作品をはじめ、代表的な紅型の優品を一堂に集めて展覧する。

④「北斎 一風景・美人・奇想一(仮称)」

[平成24年10月30日(火)～12月9日(日)]

葛飾北斎が大坂を訪れたとされる文化2年(1812)から数えて200年という節目の年に、世界的にも著名な北斎の大回顧展を開催。雄大な赤富士や逆巻く大波、楚々とした可憐な美人、滑稽味あふれる人や事物の表現など、北斎の70年を越える画業の中で生み出された北斎芸術のエッセンスを紹介する。あわせて大坂の絵師たちに与えた影響を掘り起こし、北斎の新たな一面を紹介する。

⑤「第44回日展」 [平成25年2月23日(土)～3月17日(日)]

大阪に春を告げる毎年開催の伝統ある現代美術の総合公募展で、日展の大家作家による基本作品と、大阪・奈良・和歌山・兵庫の4府県の地元作家入選作品もあわせて展示。

(3) 特別陳列

館蔵・寄託の作品を中心に、場合によっては個人などから一括で作品を拝借しながら、学芸員の調査研究の蓄積を基礎に様々なテーマを決め、中規模の特別陳列を実施する。本年は中国絵画の個人コレクション展と館蔵品・寄託品を中心とした企画展を開催する。

① 橋本コレクション 中国書画

[平成24年7月28日(土)～9月2日(日)]

橋本コレクションは現在東京の渋谷区立松濤美術館に一括寄託されているが、橋本末吉(1902～91)氏による明清時代の書画を中心に、戦後の関西ではぐくまれたコレクションで、およそ150件の作品を一堂に展覧する。

② 「酒と食のうつわ」 [平成25年1月10日(土)～2月11日(月・祝)]

館蔵の森コレクション・カジュアルコレクションなどの蒔絵酒杯を中心に、館蔵品や寄託品の中から江戸～明治時代の飲食器の優品を選び展覧する。

### 3. 調査研究事業

開館以来の調査研究活動の実績をもとに、他の博物館施設や各学会との連携をおこなって、独自企画の展覧会を実現させ、講演会・シンポジウムなどを開催する。また、国内外の各種学術雑誌や大阪市立美術館発行の図録・紀要などに論文やエッセイなどを掲載し、その研究成果を積極的に発表して、今後のさらなる学術発展に寄与する。

### 4. 教育・普及事業

特別展の期間中に、展示内容の理解を促進するための講演会やギャラリートークなどを開催するほか、最新の調査研究の成果や美術文化全般にわたって、広く市民に普及し理解していただけるようなテーマでのセミナーなどを開催する。また、展覧会内容や館蔵品については、展覧会図録・所蔵品図録などのほか、ホームページなどでも最新情報を提供する。

### 5. 学校・市民等との連携

学校との連携事業として博物館学の実習生を受け入れ、また、将来学芸員を目指すインターン（研修生）とともに、教職員研修等も実施している。

美術研究所が自主事業として行なう体験学習会「美術館へ行こう」では、夏には児童・生徒を対象とする学習会を天王寺動物園と協働で開催し、冬は大人向けにデッサン教室を実施している。

また、各種市民団体の見学会の誘致や作品解説等を行ない、市民が美術により広く触れる機会を提供しているほか、各種団体との協働に努め、幅広い市民ニーズに対応できるよう様々な検討と実践に努める。

### 6. 情報発信・広報宣伝

美術館情報を掲載しているホームページをリニューアルして情報発信力を強化するとともに、展覧会スケジュールや特別展・常設展の情報を掲載した広報誌「美をつくし」を、年2回（3月、9月）発行する。また、展覧会開催ごとに市内の各種施設をはじめ地下鉄などへのポスター・チラシなどを配布、さらに大阪市の各所属が発行する広報誌やメディア各社への情報提供を通じて、新聞・雑誌などの媒体で広く広報・宣伝活動を行う。こうした活動を積極的に展開し、広く市民をはじめとする利用者に対して、美術館概要、利用案内、展覧会の内容、館蔵品の紹介などに努める。

### 7. 来館者サービスの向上

天王寺ゲートから美術館への案内サインの改善、展示品のわかりやすい説明など観覧者にやさしい環境作りを行う。また、受付窓口寄せられる利用者の要望やアンケート調査の分析結果などを職員が共有することにより、市民の生の声を的確に美術館活動に反映させ、来館者のサービスの向上に努める。

## 8. 施設と設備の維持管理

施設と設備はともに老朽化が進んでおり、修繕の必要な箇所が多々存在する中、限られた予算を有効に活用しながら、効果的な予算執行に努める。また、作品の保護と保全に関する空調などの整備と能力の維持・向上はもとより、利用者が快適かつ安全に施設を利用できるよう常に施設を衛生的に保持し、館内外の美観保持に努める。さらに、人と機械による24時間警備を行うなど、作品と利用者にとって安全で快適な施設の維持管理に努める。

## 9. 美術研究所・友の会事業

美術研究所が行っている実技指導・コンクール・体験学習会「美術館へ行こう」などの事業と、友の会が実施している毎週日曜日の絵画教室「日曜洋画会」などの事業の双方を財団の自主事業と位置づけ、美術研究所・友の会運営委員会を開催し、双方の有機的な連携を図りながら、技術の向上と美術の振興に寄与する。

## V. 大阪市立東洋陶磁美術館事業

### 1. 資料の収集・保管事業

収蔵資料を基に、より特色のある質の高いコレクションの形成のため高い専門性を生かして効果的、効率的な収集計画を作成する。また、芸術的あるいは資料的価値の高い作品の寄贈受入に努める。

東洋陶磁その他これに関する研究資料、文献、写真等を収集整理し、東洋陶磁の研究拠点として充実を図る。

また、常駐警備及び厳重な保管設備により作品の安全性を確保する。

### 2. 展示事業

#### (1) 平常展(常設展)

安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌<sup>イ・ビョンチャン</sup>コレクションの韓国陶磁、日本陶磁の中から代表的作品を中心に約 300 点をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示する。あわせて、沖コレクションの鼻煙壺約 100 点を展示し、陶磁器以外にも中国の美術工芸品を紹介する。

(ただし、企画展・特別展開催時は規模縮小により展示点数も減少する)

また、平常展に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約 20～30 点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示を次のとおり開催する。

① 「李秉昌コレクション韓国陶磁」 [平成 24 年 4 月 7 日(土)～7 月 22 日(日)]

李秉昌コレクションの高麗から朝鮮時代の韓国陶磁を紹介する。

② 「中国の青花(仮称)」 [平成 24 年 8 月 4 日(土)～10 月 14 日(日)]

景德鎮の元から明時代を中心とした青花磁器を紹介する。

③ 「篠田博之・めぐみコレクション(仮称)」

[平成 24 年 10 月 27 日(土)～12 月 25 日(火)]

篠田博之・めぐみ氏からこれまでご寄贈いただいた中国、韓国、日本陶磁コレクションから、代表的な作品を選び、その魅力を紹介する。

④ 「人間国宝 濱田庄司の茶碗(仮称)」

[平成 25 年 1 月 12 日(土)～3 月 31 日(日)]

堀尾幹雄コレクションの濱田庄司の茶碗を紹介する。

#### (2) 企画展

① 開館 30 周年記念企画展「白磁を飾る青—朝鮮時代の青花」

[平成 24 年 8 月 4 日(土)～10 月 14 日(日)]

「青花(せいか)」とは、白磁の素地の上に青を発色する酸化コバルト顔料で絵付けし、透明釉をかけて焼成したものをいう。本展では、所蔵品約 35 点により朝鮮時代(1392-1910)の青花の歴史をたどる。

② 開館 30 周年記念特別企画展「天目茶碗（仮称）」

[平成 24 年 10 月 27 日（土）～12 月 25 日（火）]

当館の国宝「油滴天目茶碗」は中国福建省建窯（けんよう）でつくられたもので、伝世の油滴天目中の最高傑作として知られている。今回、最新の研究成果とともに、この国宝「油滴天目茶碗」を中心とした様々な天目茶碗の美を紹介する。

(3) 特別展

開館 30 周年記念特別展「国立マイセン磁器美術館所蔵 マイセン磁器の 300 年」

[平成 24 年 4 月 7 日（土）～7 月 22 日（日）]

2010 年に開窯 300 年を迎えたマイセン窯は、ヨーロッパにおける磁器生産発祥の地として知られる。国立マイセン磁器美術館が所蔵する約 230 点の作品により、西洋磁器誕生のドラマと 300 年の歴史の全貌を紹介する。本展では、東洋への憧れを示す「柿右衛門写し」、「シノワズリ（中国趣味）」などの作品群、磁器の動物園のための大型動物彫刻、宮廷生活を彩ったロココ様式のフィギュリン、万国博覧会出品作、モダニズム期の斬新な作品群など各時代を代表する名品の数々が一堂に会する。

(4) その他（館外での共催展覧会）

平成 24 年 3 月 12 日から中国・甘肅<sup>かんしゅくしやう</sup>省博物館をはじめ計 6 館において、当館館蔵品による「江戸名瓷<sup>えどめいじ</sup>—伊万里展」を巡回開催する。また、平成 24 年 6 月 30 日から 9 月 30 日には高崎市タワー美術館において、「大阪市立東洋陶磁美術館所蔵 濱田庄司 HAMADA SHOJI 展—堀尾幹雄コレクション（仮称）」を開催する予定である。

### 3. 調査・研究事業

東洋陶磁その他美術に関する調査研究事業として、科学研究費等の競争的資金の活用も含め、中国陶磁、韓国陶磁、日本陶磁に関する研究・窯址調査等を行い、その成果を展示・講演活動等により市民へ還元するとともに、学会での研究発表などにより学術の発展に寄与する。

### 4. 教育・普及事業

(1) 講演会等の実施

展覧会の内容の理解促進や、調査研究の成果を還元するため講演会、講座、研究会等を開催する。

- ① 特別展などにおける外部講師による講演会の開催
- ② 講座、学芸員アフタヌーンレクチャーなどの開催
- ③ 東洋陶磁学会、民族藝術学会などとの提携による研究会などの開催
- ④ 特別展における学芸員によるみどころ解説の実施



## (2) ボランティアによるガイド事業

常設展、企画展の展示期間中、土・日・祝日の午前と午後にボランティアによるギャラリガイドを行う。平日も予約によるガイドを実施。ボランティアガイド事業の充実を図るため、学芸員が随時研修を行う。

## 5. 各種団体との連携

法人が運営する各館・所との連携強化を図るとともに、各種団体、学校、地域活性化計画、周辺各施設との連携により、効果的な広報活動と入館者へのサービスの充実を図る。

## 6. 情報発信・広報宣伝

ホームページ、館案内パンフレット、年間展示予定、ポスター・チラシ、マス・メディアなどにより、東洋陶磁美術館の活動を広く周知させる。

入館者に対するアンケート調査を随時実施し、入館者の要望等を事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かす。

## 7. 来館者サービスの向上

来館者のニーズに応じた案内サインの改善、解説などの外国語表記の充実、ボランティアによる展示解説など、サービスの向上に努める。

## 8. 施設の維持管理

利用者が安全かつ快適に施設を利用できるよう全ての施設、設備の適切な維持管理を行う。

## 9. その他事業

### (1) 出版等事業

展覧会図録、館蔵品図録、ミュージアムグッズなどの製作販売を行う。

### (2) 友の会事業

友の会は、東洋陶磁美術館の存在意義を評価し、収集・調査・研究・学術交流等の活動を側面的に支援して、美術館の一層の発展と充実を図ることに賛同する会員で組織されている。

講演会などを通して会員へ東洋陶磁に関する情報提供等を行う一方、美術館の利用促進や普及活動などに会員の協力を求めるなど相互連携を図る。

## VI. 大阪城天守閣事業

### 1. 資料の収集、保管事業

豊臣時代歴史資料や大阪城関連資料、武器武具参考資料、大阪郷土資料について、収集及び寄託化に努め、また展示用複製資料を作成する。収蔵庫および展示ケース内の温湿度や空気環境を良好に保ち、収蔵庫内防疫により資料の保全を図る。損傷のある収蔵品については専門機関に依頼して修復を施す。

### 2. 展示事業

#### (1) 常設展示

2ヶ月を目途に文化財展示を全面的に更新する。そのつど3階・4階の各フロアごとに、新しいテーマの展示を立案する。

#### (2) 特別展

①大阪城天守閣・大阪歴史博物館合同自主企画特別展「日欧のサムライたち—オーストリアと日本の武器武具展—」

[平成24年3月24日(土)～5月6日(日)]

大阪城とエッゲンベルグ城との友好城郭提携3周年を記念した特別展を、大阪歴史博物館を会場とし、両館の合同自主企画として開催する。神聖ローマ帝国時代と豊臣期の武器武具など日欧の資料を比較展示し、東西の歴史・文化・戦闘方法を紹介する。

②秀吉の城と軍略(仮称)

[平成24年10月6日(土)～11月25日(日)]

城づくりの名人といわれる秀吉は、実際多くの城を築いた。織田信長の部将時代には長浜城と姫路城。天下統一の拠点として山崎城や大坂城。関白の政庁として聚楽第。側室と子どものために淀城。朝鮮出兵の基地として肥前名護屋城。隠居所として伏見城などなど…。大名たちは秀吉の城づくりに参加することで築城技術をまなび、秀吉の城は全国各地の城のモデルとされた。本展では「城」という視点から天下統一の謎と秘密にせまり、豊臣大坂城の意味を再評価する。

#### (3) テーマ展

①世情—大阪城天守閣収蔵風俗図屏風にみる

[平成24年3月24日(土)～5月6日(日)]

豊臣秀吉の天下統一をまたぐ前後の時期、美術界では人間のもろもろの営みを活写する風俗画がさかんに制作された。労働や遊楽、流行、行事、戦乱など、人の世の諸相をありありと表現するそれらの作品は、同じ時代に生きる名もなき人々を主題にする点で画期的だった。そこでは職業や老若男女にかかわらず、人生が描く価値のあるものとしてとらえ直されているのである。本展ではそうした風俗図屏風のなかに当時の世情を探る。

## ②南木コレクションシリーズ第13回 古写真 なにわの行事・祭礼（仮称）

〔平成25年3月21日（木）～5月6日（月）〕

大阪城天守閣が所蔵する大阪の庶民資料「南木コレクション」の中から、大阪の伝統的な行事や、寺社をはじめとする祭礼の様子を撮影した古写真を展示する。町人文化が花開いた江戸時代の面影を強く残す戦前の貴重な写真から、大阪の庶民文化のルーツを探る。

### 3. 調査・研究事業

「豊臣時代資料・史跡調査」および「徳川時代大坂城関係史料調査」を実施するほか、収蔵品や関連テーマについて、個別あるいは他の研究機関と連携して調査・研究を進める。

それらの成果を『大阪城天守閣紀要』・『徳川時代大坂城関係史料集』等を作成・刊行することにより公表する。

### 4. 普及事業

#### (1) 教育普及

講演会・シンポジウム・史跡見学会等において歴史や資料に関する知識の普及を図る。また市内の小・中学校と連携して「大阪城写生画展」を開催する。また、自主事業として、館内に兜・陣羽織（レプリカ）の試着体験コーナーを設け、希望者に体験の機会を提供する。

#### (2) 資料の活用・普及

収蔵品図録や展覧会図録、名品絵はがき、館蔵品目録、大阪城の案内書等を作成し、頒布する。また収蔵品や関連資料の写真を作成管理し、公共機関や研究者、出版・放送関係機関その他からの掲載や複製作成・商品化の要望に応じ積極的に提供することで、資料の普及に努める。

他の博物館施設等からの資料貸出依頼に応じるだけでなく、展覧会の企画や展示指導等についても協力し、天守閣資料の普及を図る。

### 5. 史跡の活用・普及事業

#### (1) 文化集客イベント

重要文化財に指定されている城内古建造物の特別公開を行うほか、訪れた人々が大阪城や大阪の歴史・文化を身近に感じていただけるようなイベントを、自主事業として季節ごとに開催することで大阪城の魅力を高め、集客につなげる。

①大阪城ファミリーフェスティバル（5月）

②夏イベント「七夕まつり」（7月）

③大阪城夢祭 重要文化財「櫓・金蔵」特別公開（秋）

④大阪城夢祭 Oh!城まつりスペシャル

（ステージイベント）（秋）

⑤迎春イベント（1月）

(2) 姉妹城・友好城郭連携事業

大阪城とゆかりの深い姉妹城（長浜城・和歌山城）や友好城郭（上田城・エッゲンベルグ城）と連携しつつ展覧会等の共同事業を展開し、相互に史跡の活用および宣伝普及を図る。

**6. 情報発信・広報宣伝**

国際的金融危機に端を発する国際経済の沈滞化や円高の進行などによる国内外の観光行動が減少している厳しい状況の中、大阪を代表する施設にふさわしい特別展、テーマ展及びイベント等を実施するとともに、ホームページ・ポスター・チラシ・マスメディア等を通して、幅広い効果的な情報発信・広報宣伝を行うことにより、一層の集客力の向上に向け努力する。

**7. 来館者サービスの向上**

改札・インフォメーションにおける外国語対応及び音声ガイドシステムの拡充並びにリーフレット、館内サイン、文化財展示解説などの外国語表記に取り組み、館内案内の充実を図る。

**8. 施設の維持管理**

改札・案内・警備・清掃・昇降機の運転業務を実施するとともに設備等の定期的な保守点検を実施し安全で快適な施設の維持管理に努める。

**9. 大阪城天守閣売店の運営**

天守閣売店の管理運営形態の検討を行い経費削減に努めるとともに、ホームページを活用し、季節ごとの売れ筋商品を紹介する等広報活動を充実させ収入確保に向け努力する。

## VII. 法人の連携事業

大阪歴史博物館・大阪市立自然史博物館・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪城天守閣に大阪文化財研究所を加えた当法人の事業の中で、一体的に取り組むことが効果的な次の事業について、関係機関や大学等との連携も視野に入れて積極的に展開し、内容の充実や向上を図る。

### 1. 法人の自主事業

#### 1) 学校等との連携

大学との連携については、昨年度に引き続き大阪市立大学との包括連携協定に基づき、市民向け講演会の開催、博物館講座（授業）を通じた学生支援、大学教官との共同研究などを実施する。また、キャンパスメンバーズ制度により、学生による博物館施設利用の促進を図る。

小・中学校についても校長会や教科担当教員会への積極的な広報の展開と利用条件の整備に取り組み、学校園による利用促進をめざす。

科学館を運営する（財）大阪科学振興協会と密接に連携し、講座の共催や博物館情報の交換などに措いて積極的に連携を図り、当法人の事業充実に活かす。

#### 2) 法人の広報事業等

各館・所の広報を支援するとともに、法人本部としてH・Pを運営して各種情報の発信を行う。また、事業提案や支援を通じて民間企業との連携を図り、サービス向上に結び付ける。

#### 3) 事業評価

各館による自己評価をもとに事業の成果と課題を幅広い見地から確認する外部評価委員会を開催し、前年度の各館運営の全般に渡る評価を行い、今後の事業展開に活かしていく。

### 2. 博物館・美術館管理運営事業に関するもの

#### 1) 共同広報事業・共同キャンペーン事業

当法人の5館に法人外の大阪市立科学館等の施設を加えた「8ON（エイトオン）」グループとして、ポスター・ニュース・ガイドなどの紙媒体およびWebなどによる共同広報、市民が各施設を回遊しそれぞれの新たな魅力を発見してもらうキャンペーン「ミュージアムウィークス」を実施する。

#### 2) 文化連携事業

5館が他の文化施設や文化・芸能に関する技能の保持者と連携して事業を実施し、単館にとどまらない新たな文化の魅力を創り出し、市民に提示する。

#### 3) 普及啓発事業

8ONグループの強みを活かしてひとつのテーマを違う専門的立場からアプローチする市民向け連続講座を開催し、博物館群の魅力をアピールするとともに、グループ館を回遊する形での利用向上に努める。